令和４年度　広報委員会　活動報告

■委員名	委 員 長：西口久代 副委員長：石田貴美子 委　　員：生田美苗・田中雄大・細見友希・前原翔太郎・三崎修子
■開催回数	７回
■活動目標	１．広報委員会と協会の広報会議との連携協働により、効果的な広報活動を進めていく体制を構築する。 ２．会員・看護職向け、県民向け（看護を志す中高校生含む）に適時適切な情報を提供する。対象別に効果的な広報活動を実施する。 ３．看護ひょうごで､広報委員会の発信するページを新たに作り､会員目線で会員のニーズにあった情報発信を行う。 ４．会員が望む会員メリットについて､また本会の情報発信ツールやその内容について、会員からの意見を聞き、会員のニーズに合った広報のあり方について検討し、広報活動に活かしていく。
■活動内容	１　広報活動の基本方針についての意見交換 広報に関するアンケート調査、効果的な広報戦略について協議 ２　会員向けの「協会ガイド」と「看護ひょうご」､県民向けの「ささえ」の企画､立案、編集、発行 看護ひょうご 112号（夏号）　「Voice of Hyogo Nurses」の新企画開始 113号（秋号）　表紙写真イメージ変更、採用者への景品変更 114号（新春号）「コロナ禍での若手保健師の座談会」 115号（春号）　「男性看護師の育児休暇についての座談会」 ３　若手看護職を対象にした座談会の開催 ４　新入会員研修の実施　ハイブリッドで実施
■活動の評価	今年度から協会広報活動の推進体制を見直し、広報委員会と協会内部の広報会議との連携協働により協会広報を推進していく体制としたことから、広報委員会の活動目標を明確にして進めることができた。 【広報活動の目的】 １　看護協会の事業、取り組みをタイムリーに会員、県民に情報発信する。 ２　看護に関する適時適切な情報を提供し、看護の質向上、キャリア支援の推進につなぐ。 ３　看護への興味関心を深められるよう、看護の魅力を伝え、組織力の強化、協会活動の活性化を図る。 「看護ひょうご」では､会員投稿の紙面を増やし､景品を変更するなど会員ニーズに合った魅力的な広報となるよう工夫したほか、新たな企画として広報委員会特別企画として若手看護職の座談会をシリーズ化して掲載するなど、関心を持って読んでもらえるようにした。 県民向け情報誌「ささえ」については、コロナ禍で配布が困難な状況であったことから、昨年度作成したものを商業施設や図書館など新たな場所に配架を依頼し、県民に看護職への道への関心を持ってもらえるようにした。

	また、看護協会に期待すること等の会員の声の聴取について広報会議と協働して、アンケート調査を実施した。その結果を踏まえて、委員会において、対象別広報戦略、広報手段・媒体・ツール等について協議し、基本的戦略方針を提案し、次年度の活動に活かしていく。 新入会員研修については、コロナの感染状況によりハイブリッド（ほとんどがオンライン）で開催。各施設の協力も得て多数の参加があった。 看護協会紹介動画を作成し、研修において活用したほか、ホームページ上で常時見ることができるようにした。しかしながら、新入会員研修は看護職として就職して初めての研修でもあるので、集合で参加できたほうが協会への理解関心が深まるとの意見もあった。 若年層を含め幅広い年代に読んでもらえる誌面つくり等に力を入れて取り組んだ。
■今後の課題	１．ＳＮＳの活用等会員が利用しやすい情報発信のツールの工夫 ２．ホームページの充実等情報発信の工夫 ３．若者層等の会員確保を図るための広報活動強化